

# 金属部会長便り(2025年2月号)2025年2月2日発行(第43号)

田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

部会長便り第43号

## 1 直近の活動

1月5日(日) 幹事会1430～

1月19日(日) 企業内技術士勉強会(第23回目)とBOR議論、

1月26日(日) 吉武記念講演会(第4回) 機械振興会館

## 2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

2月2日(日) 幹事会

2月9日(日) 金属部会CPD技術セミナー14「技術者倫理3」

2月15日(土) [YES-Metals!](#) & 年次ステアリング会議

2月16日(日) 「企業内技術士勉強会」(第24回目) <<新井田さんの「技術者倫理」講義

2月18日(火) 部会長会議

2月23日(日) 金属部会定例部会(2月度) 「技術士とは何か」

## 3 部会四方山

一月は始まったと思ったら終わってしまっていた。近年、まれに見る速さだ。この分では、今年もあっという間におわるかもしれない。

年末にハワイから戻ってきて、自宅には正月だけ。そのあと海老名に戻って原稿書きだった。

会社は6日から始まり、初日こそ安全祈願や仕事始めで終わったが、二日目以降は設備トラブル、設備打ち合わせ、引き合い検討がどばっと入ってきた。年初早々から休日出勤でクレーンの工事もしんどかった。それが終わると、会社が終わってからの大阪への移動、大阪府での熱処理講義、98歳のおばさんのお見舞い、勉強会と週末が全部潰れた。次の週はもっとひどかった。技術士会の新春記念公演と賀詞交換会が月曜にあり、ついでに出版社と今年出す3冊の打ち合わせをして余計に気分が重くなった。1日置いて会社の田中組の新年会、また1日置いて東部金属賀詞交換会、終日の「鉄」の歴史フォーラムと懇親会、そして吉武記念講演会と週に5回の飲み会をこなした。参加するだけなら簡単なんだが、飲み会の席上ではずっと喋りっぱなしで、足が攣り、終わったと思ったら東京から海老名までの電車での戻りがある。1月の5回の東京で飲んでの帰りは、4回まで電車に乗り間違えた。いや、山手線をぐるぐるまわったり、海老名で降り損なってしまったり、場所がわからなくなったりするだけだが……。若年性健忘症かもしれない。あ、68歳なら若年ではなく立派な老人性かもしれないが。

その間、会社ではいろんなお役所とのややこしいやりとりがずっと続いていた。夜の四部会長会議もしんどかった。

月末には1日だけ弾丸帰省をし、確定申告用の書類整理を行なった。こちらはかあちゃんが必要書類をまとめてくれているのと、もう十数年確定申告をしてきたものだから手順が標準化されているので半日で終わった。でも、昨年働きだしたら、せっかくの年金がほとんどお上に召し上げられてしまった。なんてことだ。おまけに厚生年金まではらわされている。おもしろいのは数ヶ月ごとに年金支払額変更通知がくる。つまり働いている期間が2ヶ月ごとに増えるため、ご丁寧に真面目に計算して送ってくる。お上もややこしいことせずに、ある年になったらスパッと年金を渡してくれればいいのに。これって65歳の時、先行き心配で年金をもらい出したのだが、それ以降繰り下げ支給を続けていることになるのかもしれない。

もう二月になった。二月もめちゃくちゃな予定だ。これまでのどたばたに加えて、4月出版の本の校正が連日入りだす。正直、この一年は、過去経験したことのないドタバタが続いたが、それが加速している感覚だ。

あ、どうでもいい話だが、「世界史を変えた金属」が韓国語に翻訳されて出版された。中国語や韓国語では冊数がでないので、英語版の契約を急いでくれと出版社にお願いしている。そのうち決まると思う。「日本史を変えた金属」を次に出そうとしていたら、出版社から待たがかかった。「技術者倫理のキホンの売れ行きがこのところうなぎ登りなんです。先生、このスピノフ本を先に書いてくれませんか」うなぎがどんな格好で昇るのか和鐵はわからないが、数字が上を向く様をうなぎに例えているんだろう。

でも和鐵は、次は「技術者倫理のジツム」を出すつもりなんで、その後にすることを宣言すると、しぶしぶうなづいた。「でも営業が・・・」と未練たらたらだが、体はひとつしかない。8月までにジツムを書いて、そのあとスピノフ本と日本史を同時に書くことにした・・・。こういう打ち合わせの時、一番困るのは技術士会の仕事やウィークデーの仕事をすっかり忘れて議論していることだ。まあ、なんとかなるものだが。和鐵は本気で『靴屋の小人』理論を信じている。どんなに切羽詰まっても期日になると出来上がっているものだ。

## 5 和鐵管見39

先月の1月26日に放映されたTBS世界遺産「世界を変えた鉄」をご覧になられた方は、たくさんいらっしゃるでしょう。まあ、和鐵は監修しただけなので、がっつり制作に関わったわけではありませんが、ファクトチェックとか、クレームが来た時の腹切り要員だということは理解できていました。

作っている最中に、その事件が起きました。8月からコンテンツを選んで構成をつくりだしました。それは9月のある日の何気ないネットニュースからでした。

皆さんは番組の最後の方で真っ赤な砂の砂漠が登場したのを覚えていますか。あれは砂が数千年も内陸に運ばれていく途中で赤鉄鉱を纏ったためだと説明し、あの地域をナミビア共和国にあるナビブ砂海と紹介しました。世界遺産のナビブ砂海は現在でも結構有名です。それは、定点カメラが砂漠のオアシスを写していてYoutubeで流しっぱなしにしているのです。そこには、多くの砂漠の生き物が映し出されています。

事件というのは、ネット情報に「ナミビアの砂漠」という言葉が9月ごろから溢れだしたのです。すわ！番組の情報漏洩か？

もちろん世界遺産の話ではありませんでした。「あみこ」でベルリン国際映画祭フォーラム部門に招待され高く評価された山中瑶子監督・脚本の青春ドラマです。現代日本の若者たちの恋愛や人生を鋭い視点で描き、2024年第77回カンヌ国際映画祭の監督週間で国際映画批評家連盟賞を受賞した作品です。

映画内容をチェックし、番組のファクトチェックをしたかったのですが、なんせ下高井戸シネマでしか上映していないので、なかなか見に行くチャンスがありませんでした。映画評でも砂漠の話とはなんの関係もなく、「砂漠」の枕詞に「ナミビアの」とついただけのようです。名前の先使用权や内容では関係ないのですか、青春ドラマと聞いて、砂漠のキリンやシマウマの甘酸っぱい青春ドラマを想像する人などいないかと、自分を落ち着かせました。

この手の映画では、2015年頃、いろんな金属について解説を執筆していた時、突然「セシウムと少女」というセンセーショナルな題名の映画が放映されて戸惑ったことがありました。こちらは阿佐ヶ谷にあるラピュタ阿佐ヶ谷と呼ぶ映画館で、ジブリ系のアニメータがつくった実験映像でした。阿佐ヶ谷に住む女子高生のみみちゃんと7人のくたびれた神様が、逃げたおばあさんの九官鳥を探して東京中を駆け巡る姿を描いた冒険ファンタジーでした。これは相当やばい映画でした。場面がコロコロ変わるし、和鐵が手書きしたイラストを百倍くらいひどくして、それをアニメ化したり実写であったりする実験映像です。いまはアマゾンプライムで無料で見られるのですが、何度挑戦しても途中で爆睡してしまう催眠映画です。

いつか見にいこうとして半年が経ってしまいました。けったいな映画好きの和鐵として、見ないで終わることはできません。今月中に頑張ってお高井戸に行って16時半からの上映を見ようと思っています。最近、また映画・ビデオ好きが蘇ってきて、結構レア映画にハマっています。まあ、ビデオで見る方が多いですが、「タイムパトロールのOL」とか「ホット・スポット」とか「ファブル」とか「ベイビーワルキューレ」なんかにハマり出しています。